

～TANKYU～

谷地南部小学校

校内研究だより

2022. 10. 26

No.23 文責 伊藤

なぜ「宿題」を出すのか？

先生方、南小祭にむけて日々の指導お疲れさまでした。各学年の色が存分に出て、とてもカラフルな一日になったと思います。どの学年ものびのびと楽しんでおり、太陽のような笑顔があふれる素敵なステージの連続でした。この頑張りが、子ども達の今までとこれからをつなぐ懸け橋となり、それぞれが目指す dream class へと導いてくれることと思います。

さて、今回のテーマにもなっている「宿題」ですが、なぜ出すのでしょうか。先生方は、どのように考えますか。学習を定着させるため？プリントやドリルがあるから？習熟度を見取りやすいから？これまでもそうしてきたから？これまでの私は、全て当てはまっていました。年度初めに買ったものを使わなければいけないし、全員に一括で課題を課せば習熟の度合いが一目瞭然で、正直ずっとそうしてきたのでその流れを変えないほうが楽だと思ってきました。

年度初めに研究主任と話をし、「家庭学習について少し取り組んでみないか？」と任せていただいてから、Twitter を読み漁ったり書籍を読んでみたりしました。全国の教員の皆さんも同じ悩みを持っていることがうかがえました。本をあまり読まない私ですが、空いている時間に興味深いトピックを拾って読み進め、正直人生で一番真面目に本を読んだかもしれません。様々な捉え方や意見がある中で、我々教員が立ち返るところはやはり学習指導要領だと思い、解説編を読んでみました。このように書いてありました。

確かな学力（第1章第1の2の（1））

- （1） 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること。その際、児童の発達の段階を考慮して、児童の言語活動など、学習の基盤をつくる活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、児童の学習習慣が確立するように配慮すること。

（小学校学習指導要領解説 総則編 p.23～24）

さらに説明の文章では、「家庭との連携を図りながら、宿題や予習・復習などの家庭での学習課題を適切に課したり、発達の段階に応じた学習計画の立て方や学び方を促したりするなど家庭学習も視野に入れた指導を行う必要がある。」とあります。説明と合わせても、たった5行程度の扱いです。つまり、学校側が目指すゴールは「学習習慣の確立」であり、「宿題」というのはそのための方法の一つに過ぎないということになります。もちろん毎日コツコツできれば、今後の学習や生活にも活きるし一番良いのは間違いありません。しかし、子どもによってはその習慣が「1日おき」の子もいれば、「週末まとめて」の子もいるのかもしれませんが。

発達の段階に応じてではありますが、まずは課題提出の期限に幅を持たせてみるというのでもいいのかなと思います。「学習計画の立て方や学び方を促す」とあるので、丸投げではなく適宜声がけする必要もあると思いますが・・・。